



女性学研究センター年次報告（2009年度）

著者	伊田 久美子, 田間 泰子
引用	女性学研究. 2010, 17, p.130-133
その他のタイトル	2009 Annual Report
URL	http://hdl.handle.net/10466/12670

女性学研究センター年次報告・2009年度

1. 運営体制

- 所 長 萩原弘子（人間社会学研究科長）
 主 任 伊田久美子
 副 主 任 田間泰子
 共同研究員 青木賜鶴子（言語文化学科）
 浅井美智子・酒井隆史・福田珠己・村田京子・森岡正博・
 渡辺博明（人間科学科）
 東優子・山中京子（社会福祉学科）
 熊安貴美江（総合教育研究機構）
 学外研究員 足立眞理子（お茶の水女子大学）、木村涼子（大阪大学）、
 古久保さくら（大阪市立大学）
 運 営 委 員 （所長・主任・副主任のほか）
 ケイン・ケビン（言語文化学科）、秋庭裕（人間科学科）、
 児島亜紀子（社会福祉学科）
 事 務 職 員 伊藤ゆきこ

2. 授業

・大学院科目（人間社会学研究科）

- 「学際現代人間社会論演習Ⅰ」「同Ⅱ」（半期各2単位。伊田久美子・
 田間泰子・森岡正博）
 「ジェンダー特論1A」「同1B」（半期各2単位。伊田久美子）
 「同2A」「同2B」（半期各2単位。田間泰子）
 「現代人間社会特殊講義」（半期2単位。木村涼子）

・専門科目（学部科目）

- 「ジェンダーと社会」（半期2単位。伊田久美子）
 「ジェンダーとスポーツ」（半期2単位。熊安貴美江）
 「ジェンダーと社会思想」（半期2単位。浅井美智子）

「ジェンダーと教育」(半期2単位。堀内真由美)

「ジェンダー論演習A」「同B」(半期各2単位。伊田久美子、田間泰子)

「ジェンダー論入門」(後期2単位。浅井美智子・伊田久美子・田間泰子)

・教養科目(機構提供科目)

「ジェンダー論への招待」(前期2単位。田間泰子・酒井隆史・東優子・渡辺博明・青木賜鶴子・西田正宏・山崎正純)

3. 女性学連続講演会・連続セミナー(以下は講演会のタイトル)

第14期『ジェンダーを装う』(6月13日～7月18日)

酒井隆史「〈男〉とはなんだったのか?—やくざ映画にみる〈男〉の変容」

中村桃子「ことばで装うジェンダー」

東 優子「非典型的な「性」をめぐる性科学の言説」

新實五穂「異性装研究—近代フランスにおける服飾の社会表象」

三橋順子「トランスジェンダー(性別越境)観の変容—近世から近代へ」

4. 女性学研究コロキウム

第1回:「日本と韓国における女性労働の現状と課題」

(10月21日。本誌掲載)

「日本における女性労働の現状と課題」

発表者:屋嘉比ふみ子(ベイ・エクイティ・コンサルティング・オフィス(PECO)代表)

「非正規職関連法が韓国労働市場に及ぼした影響—女性労働市場の変容に注目して—」

発表者:梁京姫(大阪市立大学大学院経済学研究科経済格差研究センター研究員:当時)

第2回:「文学とジェンダー—19世紀フランスにおける女子教育」

(12月12日。本誌掲載)

「国王ルイ・フィリップの養育掛ジャンリス夫人の女子教育論—『アデルとテオドル』—」

発表者:村田京子(本研究センター研究員)

「スタンダールの女子教育論 ―ボーヴォワールの評価を通して―」

発表者：岩本和子（神戸大学教授）

第3回：「スウェーデン社会における民営化政策と女性起業の動向 ―
wellness関連業の例」（3月17日）

発表者：グニラ・ロンプリング（スウェーデン、カール
スタッド大学准教授）

5. 国際交流事業

冊子『ケアから考える新しい社会 ―歴史学／思想／社会学からのア
プローチ』作成。

6. 男女共同参画事業

シンポジウム（2月6日、於ドーンセンター）

「70年代フェミニズムを検証する：侵略=差別と闘うアジア婦人会議の
軌跡」

宮地佳子（侵略=差別と闘うアジア婦人会議資料集刊行会）

加納実紀代（敬和学園大学）

7. 図書・文献資料の収集

例年どおり、外国語文献資料ならびに新刊邦語文献を中心に収集した。
諸雑誌の購読も継続している。

8. 図書、機材の寄贈について

河上婦志子さんより、ジェンダー関連英語図書68冊、大橋真由美さん
よりパソコン2台とスキャナー1台の寄贈があった。ここに記して感謝
の意を表したい。

9. その他

研究紀要『女性学研究』に査読制の投稿枠を設けた。大阪府生活文
化部男女共同参画課が設立した「おおさか男女共同参画促進プラット

フォーム」にセンターとして参加している。また、「日本女性会議2009さかい」が2009年10月30日から31日にかけて開催され、センター副主任の田間がセンター代表で実行委員会に加わり、5つの分科会を統括する第3部会長として運営に参加した。

* * *

今年度、大阪府立大学は大阪府知事の方針の下、理系に特化する大学再編に取り組むことになり、女性学研究センターのこれからも大きな変化が予想されますが、センターはおかげさまで、ジェンダー関連授業や講演会、コロキウムなど様々な事業を無事に終了しました。とくに昨年度寄贈いただいた「飯島愛子関連資料」に関するシンポジウムを開催し、関係者、院生、関心をお持ちの皆様と熱意溢れる議論をすることができました。今後とも貴重な資料を保管しつつ役立てていきたいと考えております。ご関心のある方は、お時間のあるときに是非お立ち寄り下さい。

センターは、「女性問題」だけでなく男女共同参画を念頭におき、授業や連続講演会・セミナーといった定例の活動以外に、新しい様々な取り組みを活発に行っています。この数年取り組んできたワークライフバランスの課題については、大学レベルでの取り組みにセンターも参加することになり、女性研究者支援や理系女性の拡大など、大学の男女共同参画推進のために不可欠な課題にともに取り組むことになりました。

そのほか、韓国・梨花女子大学、イタリア・トリノ大学とは、昨年度の交流事業をきっかけに、学術交流協定を締結することができました。今後ともさらに実り多い交流を深めていきたいと考えています。

センター運営にご協力いただく皆様に御礼を申し上げますとともに、今後も、皆様にはセンターの歩みにご同伴いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(伊田久美子、田間泰子)